自分でやってみたい　2歳児 ぴよぴよ

クラスでくらす

「一緒にやろうよ！」「これ、貸してあげるね！」「ありがとう」「ほら、みて！」「すごいね～」などと、やりとりするようになってきました。線路を一緒につなげたり、お弁当をつくってキューピーを抱きながらお出かけしたり、お医者さんになってぬいぐるみのお世話をしたり…。やりたいことを見つけながら、周りの様子にも少しずつ関心がわいて声をかけたりして、お友だちと関わりをもち始めています。

ぴよぴよでの生活にも慣れてきて、自分でできることは自分でやってみようと挑戦するなど、がんばっている姿も見られるようになってきました。自分で腕まくりをして手を洗ったり、おやつの時にイスを運んだり、遊んだ後に片づけをしたり、おやつを食べた後に食器を運んだりするのもうまくなってきました。自分でできたことがうれしくて「〇〇ができたんだよ！」と、得意そうに話しにきてくれることもあります。自分でできることがたくさん増えてきたぴよぴよさんです。

お天気のいいときには　お帰りの前に、園庭の砂場に遊びに出かけることもあります。シャベルで穴を掘ることから始まり、その砂をトラックに乗せて運んだり、カップに入れてプリンをつくろうと何度も試したりしています。乾いている砂なので、なかなかうまくいかなかったりしますが、「あれ？」といいながら、崩れてくる砂を見るのも楽しんでいます。保育者と一緒に山をつくるときには、周りの子たちもシャベルを持って集まってきて、「なんだろう？」「何しているんだろう？」と関心をもち、一緒にやってみようと自分から仲間に入れるようにもなってきました。興味も広がり、やってみたいことが増えてきたぴよぴよさんです。

12月には、一人一人にマークが渡されました。自分は何のマークなのか、バッチを見せにきてくれる子もいます。お楽しみの集合時には、今までとは違い、「♪〇〇マークの△△ちゃーん♫」とお名前を呼ばれるのも嬉しそうでした。

少しずつ自分の世界が広がり、やってみたいことや遊んでみたいことが増えてきています。家に帰ると、お母さんたちに「今日はおともだちと遊んだんだよ！」「～っていうお洋服の人と一緒に〇〇したの。」と話すこともあるようです。

３学期も白梅幼稚園「ぴよぴよ」でいっぱい遊ぼうね。　（主任・本橋幸子）

しらうめようちえん

園だより　2021年度 第9号

白梅学園大学附属
白梅幼稚園
2021年12月20日発行
小平市小川町１－830

段ボールを切って折ってつくる　年中 ぞう組

クラスでくらす

この２学期、ぞう組では段ボールを使った、遊びの場づくりが広がりました。その大きな要因となったのは、「段ボールカッター」です。この新しい道具に「貸して！」「私も切りたい」と子どもたちは興味津々で、早速、使いだしました。段ボールカッターは、力が切る方向に向かないと上手く切れません。初めはなかなか力が入らず切り進められませんでしたが、何度も使っていくうちに段々とコツを覚えていき、今では簡単に自分たちで切れるようになりました。切った段ボール箱は家や秘密基地、ショーの舞台、電車の線路など、様々な場所になりました。面積を広くしたいのなら切り開き、強度を強くしたいのなら折り曲げて、複雑なかたちにしたいのなら長細く切り出して、それぞれの目的に沿って段ボールのかたちを変えていきました。

そのなかでも、家については「二階建ての、本当に入れるおうちを作りたい」という思いで 10 月からつくり続けています。毎日、切った段ボール箱を貼り足し、半月かけて二階建てを完成させました。しかし、一番の目的は「二階に登る」こと。更に半月の時間をかけ、頑丈にするために段ボールの柱を作りました。一本ずつ、一階の高さと同じになるように長さを測り、家の四隅に立てていったところ、なんと、12 月 3 日に（一瞬だけですが）二階に乗って立てるようになりました。二階に登った友達を見て、「うわー」「今のすごくない⁉」「ぼくも登りたい！」とクラスは大興奮。それと同時に、「キッチンとか作ればいいんじゃない？」「お風呂とか」「机は？」「そしたらもっと最高の家になるじゃん」と、クラスの仲間から次々にアイデアが出てきました。そこから今では、これまた段ボール製のベッド、椅子、キッチンが出来上がってきています。

また、10 月末にはハロウィンパーティーの飾りつけとカレンダーが下がっていましたが、12 月にはカレンダーをハロウィンからクリスマスに変えていました。そして、「サンタさんが入ってこられるように」と、二階には糸で電気とつなげて動くようにした「自動ドア」もつくりました。サンタが乗って来るソリも用意して、クリスマスが来るのを楽しみにしている、このごろの子どもたちです。

（教諭・細井佑香）

大学との交流

本園では、大学・短大の学生や先生方と活動を通して交流しています。子どもたちには新たな刺激や発見を得る機会に、学生たちには、子どもたちとの触れ合いを通して保育や遊びについて理解を深める機会となっています。今年度の交流についてご紹介します。年長については次号でご報告します。

年少

●サツマイモの植え付けと収穫

大学の宮田まり子先生からお誘いいただき、年少組では５月末に、大学の畑にサツマイモの苗を植えました。畑は学園内とはいえ幼稚園から少し離れたところにありますし、サツマイモは生長するまでに時間を要します。年少組の子どもたちの興味や関心を持続させるために、担任たちは植え付けから収穫まで、折に触れて子どもたちに話しかけ、想像をふくらませられるようにしてきました。また、散歩のときには畑に様子を見に行き、苗の変化を確認し、クラスで話し合ってきました。収穫したのは 11 月の初旬です。大きい芋も小さい芋も抜いては歓声をあげます。大きくて抜けないときは、子どもたちは「うんとこしょ！」と仲間と連なって引っぱります。収穫した芋は大事に園まで運びます。芋に名前を付ける子もいます。

自分たちで植えたものだからこそ、芋を慈しんでいるようです。その後、どのようにして食べるか、子どもたちと相談すると、「焼き芋したい」「キャンプみたいにしたい」「たくさん食べたい」と声があがりました。芋の種類によって、色と味が異なります。何度も食べ比べ、おいしい芋を味わいました。

●造形ワークショップ

11 月末から 12 月にかけて、年少組を対象とした造形ワークショップが開かれました。大学の教養発展演習Ⅱを履修している子ども学科２年生が杉山貴洋先生と幼稚園に来てくれました。実施に先立ち、担任から、普段の遊びの様子や、子どもに興味のあることを伝え、学生のみなさんに何に取り組めそうか、考えていただきました。学生から計画が提案されると、クラスの実態と照らし合わせ、子どもたちがどこまで想像し取り組めそうか、技法などは難しすぎないかなど、担任が予測することをお伝えし、学生には再度、検討し直していただきました。学生にとっては予測することと、実施して気付くこととの違いなどを感じ取っていくことが、学びとなります。

入念な準備のもと、当日は、子どもたちも学生との交流を喜び、丁寧につくったり、自分なりの表現を楽しんだりしていました。

年中

●麦の種まき

12 月、宮田まり子先生にご指導いただき、大学の畑に麦の種をまきました。先生から、畑の様子や麦についてお話しを聞かせていただきました。子どもたちは、畑にいる虫や植えられている作物によく反応しています。

麦の種のまき方は、これまで、幼稚園の畑に作物の種をまいたやり方とは違っています。種は一つずつではなく、土の道にパラパラとまきます。この筋まきに子どもたちは興味をもち、早速、試みます。さらに「種まきしたあとに土とくっつくようによく踏むといい」ということを聞き、土と種をぎゅっぎゅっと踏んでいきました。「種まきのあとに踏む」ことは初めての体験です。楽しそうに跳びはねながら踏んでいる子どももいれば、真剣な表情で何度も踏んでいる子どももいます。誰もがよく踏んで固めていました。

まき終わると、大きな大根やネギ、ゴボウ、ハーブなど、畑の作物を探したり、見せてもらったりしました。子どもたちは「何これ？」「大きい！」「いいにおい～」と作物との触れ合いを楽しみました。

サークル紹介展

昨年に続き、感染対策をしながらのサークル紹介展でした。２日間、遠足や雨でバタバタしていましたが沢山の方にご来場いただきました。「各サークルのクオリティの高さに感動！」や、「学生の頃に戻った感じがしてワクワクした」等うれしい声も沢山ありました。このために園やサークル長はじめ、沢山のご賛同・ご協力に心から感謝します。サークル活動でまた新しい保護者同士のつながりが生まれ、豊かな園生活にしてもらえたら嬉しいです。本当にありがとうございました。

（役員会サークル担当　三野）